

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02841

研究課題名（和文）複数の離島小学校と海外多民族学級をICTで結んだ新教育地域における新規的英語教育

研究課題名（英文）A Novel English Teaching in an Educational Cyber Region Created with ICT  
Connecting the Elementary Schools on Some Japanese Small Islands and those in  
the Overseas Multi-Ethnic Community

研究代表者

松元 浩一（MATSUMOTO, Koh-ichi）

長崎大学・教育学部・教授

研究者番号：20219497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本の離島地区における英語学習の環境は、都市部に比べて児童生徒の数が少ないことから、多くの異なる人々と交わって英語で意見を交わすなど、学習上の多様性に乏しい面がある。この課題を解決するため、ICTを用いて国内の離島・へき地の小学校や海外（ハワイ）の小学校を相互に結んで、英語による授業交流を実現するプラットフォームの構築に取り組んできた。

その結果、それまで限定的な内容に留まっていた英語の交流活動が、国内外の他地域の児童や多様な文化にふれて活性化し、英語の語彙、表現、活動内容等において充実した成果が得られ、日本人児童の英語を学ぶ姿勢や意欲が向上した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内の離島・へき地地区には地理的に都市部から離れていることに起因する教育上の課題がある。外国語教育においては、生徒の数が少ないことから、英語を用いて多くの異なる仲間と意見を交すことに制約があったり、多様な外国人の発する英語音や表現に触れる機会が少ないなど、教育環境が限定的である。これらの地域的課題を解決するため、ICTを用いて国内の離島地区の小学校や海外の島嶼部（ハワイ）の小学校を結んで、英語による授業交流が可能なプラットフォームを構築することにより、地理的な要因による英語学習環境の改善と向上を図った。

研究成果の概要（英文）： We have presented an idea to address education inequality stemming from economic status and geographical location, especially in EFL. Schools on small islands and in secluded areas in Japan, when utilizing a joint class opened in a cyber-metropolitan region created with ICT connecting the Japanese school and those in the overseas multi-ethnic community, can overcome the education inequality and improve the students' communicational skills including their oral proficiency in English.

In the present case study, eleven- or twelve-year-old students from two elementary schools on two islands in Japan participated in the class, and those on islands in Japan and in Hawaii participated in the class through the use of ICT. Analysis of this study shows that students felt stimulated and empowered by each other, improving their English and hoping that they could take part in the English class created with ICT, which leads to an increase in their levels of motivation to learn English.

研究分野：英語学（文法・英語史）、英語教育（教材の分析と開発）

キーワード：離島・へき地 地理的な課題 英語の学習環境 ICTによる英語交流授業 長崎県五島市 ハワイ・オアフ島 北海道厚真町 新潟県佐渡市

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本には多くの離島がある。少子化が大きな社会問題となっている今日、離島の小学校の児童数は愈々減少し、年々学校の統廃合が進められている。統廃合後も一学校あたりの児童数はさほど多くないことから、多くの場合、複式学級のクラス形態をとることが多い。こうした状況のなか、平成14年頃から小学校における英語教育（教科化に向けての準備も含む）が全国的に進められてきた。

外国語教育ならびに教育学の見地からすると、離島の少人数複式学級は都市部の学校に比べて必ずしも不利であるとは言えない。例えば、利点としては次の2点を挙げることができる。

- 少人数クラスは外国語活動（英語教育）に適した環境であり、都市部の大人数クラスよりむしろ有利な状況にある。
- 複式学級は異年齢児教育となるため、協働学習の実践によって児童の学力ならびに情緒面の発達が見込める。

一方で、筆者らの文部科学省委託調査事業による調査・分析から地理的な要因に発する離島教育の課題も見えてきた。それは主に以下の3点である。

- (1) 外国語（英語）活動を行う相手が限られてしまう。
- (2) 外国語（英語）活動の内容には多様な文化との接触や異文化の理解が含まれるが、国内の多様な地域の生活・文化的背景をもつ者との接触や相互の理解に係る英語の交流活動は有効な手段となる。しかし離島では困難を伴う。都市部とは異なり、児童は学校の内外で日常的にいつも一緒にいる仲間と外国語活動を行わざるを得ないためである。
- (3) 観光業に力を入れる昨今の日本の政策によって海外から多くの人々が日本にやって来ており、日常生活でも外国人との接触が増加し、外国語活動（英語教育）に役立てることのできる情報や機会が増えている。しかし、離島には外国人が訪れることは極めて稀である。また、都市部の小学校には海外出身者の子どもが在籍しているところも少なくないが、離島ではそれも皆無に等しい。

離島の小学校の少人数複式学級は外国語活動（英語教育）に適した環境である。したがって、上に述べた離島における外国語活動（英語教育）の地理的課題を克服する工夫があれば、都市部の小学校に劣らぬ、同等の効果的な外国語活動（英語教育）が展開できると考えた。

### 2. 研究の目的

外国語活動（英語教育）では少人数クラスが適しており、離島の小学校はその点で有利であるが、英語を用いる相手が常に同じであり、また多文化との接触や理解も難しい。地理的な要因から派生する離島教育の課題を克服し、同等の教育機会を提供するため、国内に点在する離島の小学校小規模学級、ならびに海外の小学校の多民族学級をICTで結んだ新たな教育「地域」を創出し、同「地域」を用いた効果的な英語教育の授業方法・教師の役割・教授の方法を開発する。

### 3. 研究の方法

国内の離島・へき地にある小学校（北海道厚真町、新潟県佐渡市、長崎県五島市）をICTで結ぶことによって、都市部の学校と同等の多様性をもつ、ICT上の教育「地域」（外国語活動のサイバースペース）を新たに作り、外国語活動（英語教育）の授業を行った。これによって先に述べた課題点(1)「外国語（英語）活動を行う相手が限られてしまうこと」が改善され、課題点(2)「外国語（英語）活動において、国内の多様な地域・文化的背景をもつ者との接触や相互理解」が可能となり、都市部と同様の外国語活動の質を保證できるようになった。

課題点(3)「離島において外国人に接することは極めて稀であること」を解消するため、海外で英語を母語として話す地域の小学校ともICTで結んだ教育「地域」を創出した。具体的には、ハワイ・オアフ島の小学校とICTを活用した交流授業を行った。その際に、まず時差に留意した授業時間を確保した。また同年齢・同学年ということよりも、双方の児童の英語力が近いことも重視した。国を超えての異年齢児教育も考えられるが、あまり年齢が離れていると知識や情緒、話題の面でコミュニケーションが難しくなると考えた。また、島嶼部に共通する文化や生活に留意して、交流授業の内容を吟味し授業の展開を構想した。

ICTで結んだ人工的な教育「地域」での外国語活動（英語教育）の指導方法や教育内容は、小学校英語を専門とする分担者が、ICTによる教育「地域」の構築はICT教育の専門家である他の分担者が中心になって行い、ハワイの小学校との連絡・調整、及び国際理解教育の観点からの授業づくりについては他の2名の分担者が担当した。調査の分析、考察は全員で行い、その妥当性と効果については全員で議論し合って結果をまとめた。特にハワイ・オアフ島については、国内の離島地域の学校とは事情が異なることから、研究分担者間で入念に事前打合せを実施し、以下に記す準備を丁寧に行った。

まず、交流活動を行う小学校の選定について述べる。ハワイの小学校の選定は、以前より研究交流のあった研究分担者が現地と連絡を取り合っていた。選定にあたっては、様々な民族の児童がいることに留意した。国内の離島地区の学校は、既に文部科学省委託事業等において連携していた五島市教育委員会と協議して選定した。

ハワイと五島との交流授業は、ICTを活用して北海道厚真町、新潟県佐渡市、長崎県五島市

の小学校で相互に行った授業を踏まえて、五島の小学校が用いている *Hi, friends! 1* の教科書を使用した。具体的には、同教科書 Lesson 7 “What’s this?” の教材を用い、通信ソフトウェア ZOOM を介して、児童が各自の地域文化をわかりやすく双方に伝え合い（英語プレゼンテーション）、質疑応答も英語を用いて行った。また双方の学校で、児童がほぼ等身大で映し出されるスクリーンを用い、あたかも同じ空間で授業をしているように感じられる工夫を行った。授業の展開は、日本の小学生の英語学習と学習達成度等を分析したうえで、1) 挨拶、2) 双方の小学校の児童がグループごとに文化の紹介を行う、3) 質問の受け答えを行うというものにし、また英語学の観点から、予想される英語の発話を想定して、情報構造にも留意した自然な対話の構築を目指した。これらの視点に基づいて研究参加者全員で授業案を検討し作成した。本授業案は、ハワイと五島の小学校の両担任に伝え、各小学校で交流授業の内容を決め、その準備を進めてもらった。グループごとに文化の紹介を行うとき、ハワイの小学生は写真や絵図を見せながら自分たちの文化を伝えることに決めたが、五島の小学生は写真や絵図を見せながらクイズを出し、ハワイの児童に答えてもらうことに決めた。準備にあたっては、両校ともまず、英語がわかりやすく伝わるように、声の大きさや話すスピードに気をつけて練習をすること、また五島の児童は、日本語とは異なる、英語に特有のリアクションや表現を用いて練習することとした。またハワイの児童が使用する英語語彙については、五島の小学生の習得語彙に配慮して、できる限り基本語に限定することにした。各地域文化に関するプレゼンテーションの内容は、予め食べ物、祭、地理、観光地の四つに絞ることで、質問の受け答えが活性化するように留意した。またプレゼンテーションを通じた異文化理解に関する内容については、基本的な文化理解に係る留意点を念頭において、文化的差異とともに類似性も考えさせること、すなわち、多様性の中の類似性と類似性の中の多様性の両方を児童に理解させ、違いを尊重することのみならず、差異に共感し理解する心を育むことに注意した。授業当日は、両小学校の担任教員に、児童たちがコミュニケーションに困った場合は支援してもらうことを要請した。具体的に言えば、五島の小学校の担任教員には、児童がハワイの小学校の児童が話す英語を聞き取れなかったり、伝えるための英語に困った場合に、ハワイの小学校の担任教員には五島の児童が話す英語が聞き取れなかったときに、各々児童のコミュニケーションを手助けすることにした。授業当日は、ハワイ・オアフ島には研究分担者が、五島には他の研究分担者が授業に立ち会って分析等を行った。

以上の方法で明らかにしようとしたことは、第一に、外国語活動（英語教育）において、一般に少人数クラスという有利な教育環境を有する離島の小学校が、国内の離島・へき地（北海道、新潟、五島）であれ、海外の離島（ハワイ・オアフ島）であれ、小学校を ICT で結んだサイバー教育「地域」を創出することで地理的な要因に発する離島教育の課題を多く克服できること、第二に、ICT で結んだサイバー教育「地域」での授業方法と指導原理を構築し、その効果や成果をもとに、地理的課題を克服する工夫さえあれば、都市部の小学校に劣らぬ、同等の外国語活動（英語教育）が展開できること、である。

#### 4. 研究成果

国内外の様々な離島・へき地の学校を ICT でつなぎ、サイバースペースを「都市」空間とすることによって、離島・へき地の児童に都市部と同じような英語の学習環境を担保することを目指して、北海道厚真町、新潟県佐渡市、ハワイ・オアフ島の各小学校と五島市の小学校を一对一に ICT で結んで英語の交流授業を実践し、その分析と効果を考察してきた。

教師が互いに授業案をすり合わせ、用いる語彙や話すスピード、声の大きさ、テーマの絞り込みを行い、授業中は児童のコミュニケーションをサポートすることで、国内外を問わず、統一的な形式の交流授業は十分可能となる。児童も、地域的、文化的、人間的関心を深めるほか、特にオアフ島との交流授業では、英語を母語とする児童から日本の児童への一方的な英語学習ではなく、互いが学びのモチベーションを促進することができた。こうした結果は、北海道ならびに佐渡島と五島の小学校で行った英語の交流授業で得られた成果と同様のものである。異なる文化に属する児童たちが、離島という条件ゆえに異なる文化や異なる英語との直接的な接触が困難であるという教育課題を克服し、英語力を動機づけや豊かな人間力と共に高めていけることが確認できた。五島の小学校児童へのアンケートを分析すると、海外の小学校と ICT で結んだ交流授業は子どもたちにとって貴重な思い出になり、今後の彼らの学習や人生に大きなプラスとなったことが伺える。英語を活用した交流授業を二校間のみならず、より広域に拡大するためにも、インターネット回線をはじめ、いつでもどこでも繋がる安定したプラットフォームを構築する必要がある。このことについては、地域間の時差、国別の教育観やカリキュラムの違いなど引き続き検討すべき点が残されているので今後の課題としたい。

授業は、事前打合せの時間を十分確保できたため、国内外ともに比較的順調に実施できた。児童の英語による発言も比較的闊達であった。ハワイとの交流授業では、英語を第一言語とするハワイの小学生と、外国語として英語を学ぶ五島の小学生の間で、英語によるコミュニケーションが成立し得るかという懸念があったが、予想以上に相互に理解し合っていた。こうした結果をもたらした最も大きな要因は、やはり教師の指導と役割である。教師が授業内容や語彙を制御し、かつ適切な支援を行えば、英語母語話者の小学生と日本の小学生が同一の授業内で相互に英語による対話を行うことは不可能ではないことが確認できた。異なる国との交流授業

における教師の具体的な役割とは、1) 共同で授業案を企画・調整すること、2) 授業中の児童のコミュニケーションを適切に支援することであり、これらのことを通して、3) 教員同士の国際共同研究に発展する可能性が期待できることも確認できた。

授業後、本研究に参加した国内外の各小学校の児童にアンケート調査（自由書式）を実施した。どのアンケートも児童の英語学習への意欲が強く感じられるものであった。特にオアフ島との交流授業についてのアンケートは、回収枚数が五島 20 枚、ハワイ 17 枚であった。アンケート回答に書かれた文章からコーパスを作り、目立った言葉や文を順に列挙すると（以下、括弧内は件数）、五島は「楽しかった」(13)、「またやりたい」(10)、「ハワイの文化をもっと知りたい、五島の文化をもっと伝えたい」(10)、「英語が理解できた、自分の英語が伝わって嬉しい」

(9)、「もっと英語が勉強したい」(8)、「世界のいろいろな国と同様の授業がしたい」(3)、「国内のいろいろな小学校と同様の授業がしたい」(3)であった。一方、ハワイは、「楽しかった」

(14)、「またやりたい」(13)、「英語表現やクイズ型式といったアイデアなど、自分をもっと勉強する必要がある」(11)、「五島の児童のアイデアが素晴らしかった」(10)、「五島の文化をもっと知りたい／ハワイの文化をもっと伝えたい」(9)、「実際に会って交流したい」(7)、「五島の児童の英語が想像以上に素晴らしかった」(4)であった。ハワイの小学生が五島の小学生のアイデアを賞賛した理由は、ハワイの小学生が文化を説明的に紹介した一方で、五島の小学生はクイズ型式で紹介したことにある。このことを受けて、「英語表現やクイズ方式といったアイデアなど、自分をもっと勉強する必要がある」という回答の数が増加したと考えられる。なお両校とも、後で述べるインターネット回線の不具合に対する意見を除けば、否定的な意見は皆無であった。いずれにせよ、今回の交流授業に参加した児童の圧倒的多数が今回のような交流授業をさらに行いたいと考えている。また、ハワイの児童も日本の児童も今回が海外の小学校との交流が初めてで、互いの文化をもっと知りたいと述べているだけでなく、実際に会ってみたいとも述べているとおり、文化的にも人間的にも強い関心を示している。このことから、ICTを用いた交流授業が異なる国の小学校の交流を大いに促進する役割を担うことがわかった。また、五島の小学校では、英語母語話者に自分の英語が通じた喜びを述べる意見も多く、英語学習により力を入れたいと考えるようになった児童も少なくなかった。つまり、ICTを用いた海外との交流授業は学習意欲を高める効果も大きいことが確認できた。さらに、ハワイの多くの児童が五島の児童のクイズ型式によるプレゼンテーションに触発されて、学習意欲を高めているように、英語による海外の学校との交流授業は、母語話者から非母語話者に対する一方的な英語学習ではなく、双方向の学びを促進する効果があることがわかった。

以上の成果の一部は、次の海外誌に採用され一定の評価を得た。[1] Akiyoshi Suzuki, Norio Nakamura, Shin Kurata, Koichi Matsumoto. (2017) “Using modern technology to address traditional geographic and economic limitations in education.” *Proceedings of the 11th International Multi-Conference on Society, Cybernetics and Informatics 1*, 50-55. / [2] Kurata, S., Nakamura N., Suzuki S., Matsumoto. (2018) “I-City, or a new classroom for EFL in times of change: Its theory and practice.” *Surviving & Thriving: Education in Times of Change*, 445-451. / [3] Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Norio Nakamura, Koichi Matsumoto. (2019) “EFL in the i-City and ii-Learning Community Lab: A Class in a Cyber-Metropolitan City to Address Education Inequality Stemming from Economy and Geography.” *Innovation in Language Learning 2019: the 12th International Conference Proceedings*, 14-15 November Florence, Italy, 133-136.

一方で課題も残った。国内の小学校間で行った授業では問題はなかったが、オアフ島と五島を結んだ交流授業ではインターネット回線が不安定になった。今後、発展的に国内外の三校以上の小学校を同時にインターネットで結ぶことになった場合は、さらなる回線の不安定さが懸念される。そうすると、サイバースペース上の英語教育「地域」(外国語活動のサイバースペースの場)の構築が難しくなる。国内外の、より多くの離島・へき地にある学校が相互に交流授業を行うために、安定したプラットフォームを構築する工夫が重要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 Shin Kurata, Norio Nakamura, Akiyoshi Suzuki, Koichi Matsumoto	4. 巻 -
2. 論文標題 I-City, or a New Classroom for EFL in Times of Change: Its Theory and Practice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Language Learning ACLL2018	6. 最初と最後の頁 445-451
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota	4. 巻 64
2. 論文標題 Proposal of a System that Supports Improvement of Lectures in Lesson Study at Teacher Training University	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 16th International Conference for Media in Education	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota	4. 巻 65
2. 論文標題 Development of a System to Support Learning by Video Annotation on Portable Mobile Device and Verification of a Function to Support Reflection Activities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 17th Hawaii International Conference on Education	6. 最初と最後の頁 1123-1134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 松永千茄, 呉屋博, 篠崎信彦, 倉田伸	4. 巻 18
2. 論文標題 少人数学級の中でリアクションフレーズを用いて相手意識をもたせるための小学校外国語活動の授業デザインと実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 325-334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Norio Nakamura, Koichi Matsumoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Using Modern Technology to Address Traditional Geographic and Economic Limitations in Education	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 11th International Multi-Conference on Society, Cybernetics and Informatics	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸, 藤木卓, 室田真男	4. 巻 41
2. 論文標題 携帯型モバイル端末によるビデオプレゼンテーション相互評価支援システムの開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 201-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota	4. 巻 該当なし
2. 論文標題 Development of Video Presentation Mutual Evaluation Support System with Portable Mobile-Devices using Drag and Drop Evaluation Function	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 25rd International Conference on Computers in Education ICCE	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸, 藤木卓, 室田真男	4. 巻 該当なし
2. 論文標題 ビデオプレゼンテーションの相互評価においてカテゴライズされた評価の提示が評価活動に与える影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育工学会第33回全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 519-520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota	4. 巻 該当なし
2. 論文標題 Development Video Presentation Mutual Evaluation Support System with Mobile-Device and Analysis for Evaluation Activities	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 15th International Conference for Media in Education	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸, 中村典生, 鈴木能章, 松元浩一	4. 巻 16
2. 論文標題 離島・へき地における学校間交流学習の実践 小学校外国語活動におけるICTの活用を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 225-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸, 中村典生	4. 巻 56
2. 論文標題 小学校英語の教科化に向けた短時間学習での文字指導を支援するアプリケーションの開発とユーザビリティに関する評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部紀要 教科教育学	6. 最初と最後の頁 245-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村典生	4. 巻 1373
2. 論文標題 教科化に向けて今考えておくべきこと	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸, 西田治	4. 巻 16
2. 論文標題 長崎県での離島教育の資質を備えた教員養成のための視点の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 401-404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Suzuki, Norio Nakamura, Shin Kurata and Koh-ichi Matsumoto.	4. 巻 -
2. 論文標題 "Using Modern Technology to Address Traditional Geographic and Economic Limitations in Education."	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IMSCI 2017 (International Institute of Informatics and Cybernetics 2017)	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村典生, 倉田伸, 松元浩一, 鈴木章能	4. 巻 6
2. 論文標題 ICTを用いたハワイ・オアフ島と五島の小学校の英語交流授業について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 141 - 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Norio Nakamura, Koichi Matsumoto	4. 巻 -
2. 論文標題 EFL in the i-City and ii-Learning Community Lab: A Class in a Cyber-Metropolitan City to Address Education Inequality Stemming from Economy and Geography	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Innovation in Language Learning 2019	6. 最初と最後の頁 133-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Akiyoshi Suzuki and Shin Kurata
2. 発表標題 I-City, or a New Classroom for EFL in Times of Change: Its Theory and Practice
3. 学会等名 The Asian Conference on Language Learning ACLL2018 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota
2. 発表標題 Proposal of a System that Supports Improvement of Lectures in Lesson Study at Teacher Training University
3. 学会等名 16th International Conference for Media in Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota
2. 発表標題 Development of a System to Support Learning by Video Annotation on Portable Mobile Device and Verification of a Function to Support Reflection Activities
3. 学会等名 17th Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Norio Nakamura, Koichi Matsumoto
2. 発表標題 Using Modern Technology to Address Traditional Geographic and Economic Limitations in Education
3. 学会等名 IMSCI 2017 Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin Kurata , Takashi Fujiki , Masao Murota
2. 発表標題 Development of Video Presentation Mutual Evaluation Support System with Portable Mobile-Devices using Drag and Drop Evaluation Function
3. 学会等名 The 25rd International Conference on Computers in Education ICCE ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉田伸 , 藤木卓 , 室田真男
2. 発表標題 ビデオプレゼンテーションの相互評価においてカテゴライズされた評価の提示が評価活動に与える影響
3. 学会等名 日本教育工学会第33回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin Kurata , Takashi Fujiki , Masao Murota
2. 発表標題 Development Video Presentation Mutual Evaluation Support System with Mobile-Device and Analysis for Evaluation Activities
3. 学会等名 15th International Conference for Media in Education ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉田伸
2. 発表標題 小学校英語での相互評価を支援するシステムの開発
3. 学会等名 第17回小学校英語教育学会神戸大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin Kurata, Norio Nakamura, Akiyoshi Suzuki, Koichi Matsumoto
2. 発表標題 I-City, or a New Classroom for EFL in Times of Change: Its Theory and Practice
3. 学会等名 ACLL2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村典生, 倉田伸
2. 発表標題 文字指導における効果的なアプリケーションの開発とその実践
3. 学会等名 小学校英語教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akiyoshi Suzuki, Norio Nakamura, Shin Kurata and Koh-ichi Matsumoto.
2. 発表標題 "Using Modern Technology to Address Traditional Geographic and Economic Limitations in Education."
3. 学会等名 IMSCI Conference 2017 (International Institute of Informatics and Cybernetics Conference 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Norio Nakamura, Koichi Matsumoto
2. 発表標題 EFL in the i-City and ii-Learning Community Lab: A Class in a Cyber-Metropolitan City to Address Education Inequality Stemming from Economy and Geography
3. 学会等名 The Twelfth Edition of the International Conference on Innovation in Language Learning 2019 (Grand Hotel Mediterraneo, Florence, Italy) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Akiyoshi Suzuki, Shin Kurata, Nrio Nakamura and Koichi Matsumoto	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Ichiryu Press	5. 総ページ数 63
3. 書名 EFL in the i-City and ii-Learning Community Lab: A Class in a Cyber-Metropolitan City to Address Education Inequality Stemming from Economic Status and Geographical Location	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 典生  (NAKAMURA Norio)  (70285758)	長崎大学・教育学部・教授   (17301)	
研究分担者	鈴木 章能  (SUZUKI Akiyoshi)  (70350733)	長崎大学・教育学部・教授   (17301)	
研究分担者	倉田 伸  (KURATA Shin)  (80713205)	長崎大学・教育学部・准教授   (17301)	